

柵の管理の省力化と集落ぐるみでのイノシシ対策(群馬県高山村)

- 群馬県吾妻郡高山村判形田尻地区で、水田におけるイノシシの被害対策を図るため、平成27～28年の2カ年県単事業の「鳥獣害に強い集落づくり支援事業」を活用し、集落ぐるみでの話し合いの下、野生動物侵入防止柵維持管理会議及び野生動物侵入防止柵対策管理組合を設立、電気柵設置等を実施
- 電気柵設置箇所への防草シートの効果的な設置により、畦畔管理労力を省力化

取組内容

- 集落ぐるみによる取組を行うため、野生動物侵入防止柵対策管理組合を設立(図1)
- 実証圃では、電気柵を設置して被害防止効果を実証。また、電気柵の維持管理(漏電防止のための下草刈り)の省力化を目的に、設置箇所に成長の異なる複数種の畦畔牧草を播種して適性を調査。更に、防草シートの敷設にあたっては、設置幅の違いによる下草刈り労力を比較



図3 除草シートの設置作業

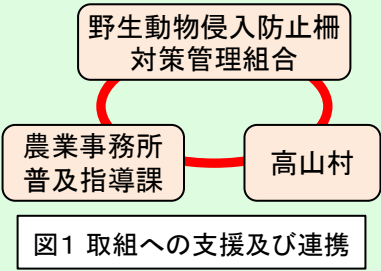


図2 現地研修会

成果

- 野生動物侵入防止柵維持管理会議の設立により、集落ぐるみでの電気柵の設置や維持管理の継続化を可能に
- 地域ぐるみの取組により、地域全体の鳥獣被害防止への意識が向上
- 毎年、イノシシによる水稻被害が1haあたり数万円程度発生していたが、電気柵設置後のH31年度には被害ゼロに
- 畦畔牧草(品種: 畦畔グリーン)で盛夏期も40～50%の被覆度を保ち、草丈が低く抑えられたが、電気柵設置箇所で漏電を抑制する草丈となることはないと判明
- 防草シート敷設においては、幅を75cm以上とすると、下草刈りの労力が軽減されることが判明

現状

- 電気柵の常時通電や適切な設置、点検の徹底、集落環境整備として藪の刈り払い、非耕作地の草刈りを事業終了後も継続

柵の管理の省力化と集落ぐるみでのイノシシ対策(群馬県高山村)

きっかけ・背景

- 当集落はイノシシによる被害が深刻で、従来から個々に電気柵の設置が行われていたが、被害は減少せず
- このため、集落ぐるみでの柵の設置や畦畔管理を検討

課題

- 野生獣の侵入に伴い水稲作物に甚大な被害
- 電気柵設置後の下草の接触による電圧の低下
- 除草作業の大きな負担

Step1 地域の合意形成 (H27～)

- 県単事業「鳥獣害に強い集落づくり支援事業」が開始
- 地域の獣害対策の進め方に係る検討会・勉強会を開催
- 集落環境調査・地図化

Step2 取組の体制整備等 (H27～)

- 野生動物侵入防止柵対策管理組合を設立
- 草木の刈払・伐採など集落環境整備の充実
- 畦畔への牧草播種、防草シート設置

Step3 実証は各種調査 (H28)

- 電気柵管理状況調査
- 畦畔牧草(品種:畦畔グリーン)生育調査
- 防草シート効果調査

表1 畦畔牧草の生育状況

調査項目	調査日		
	5/20	8/31	10/13
草丈(cm)	8.7	11.0	19.2
被覆度(%)	100	40～50	40～50

【次の課題】

- ・高齢化と担い手不足から耕作放棄地が増大
- ・侵入防止柵の維持管理(更新)のための経費負担



図4 電気柵設置箇所地図化



図5 電気柵設置勉強会



図6 夏期畦畔牧草区の生育調査(H28/10/13)



図7 防草シート50cm幅による電気柵の通電低下

取組の特色

- 柵線管理では、防草シートの効果(省力化)と適切なシート幅を確認できたが、コストや耐久性の問題があるので設置場所と確保できる労力を勘案して検討
- 牧草については、日当たりのよい法面では定着したが、芝は雑草に覆われてしまい定着せず。どちらも草丈が高くなるので柵線の直下では適切な刈り込みを実施



図8 シート敷設の様子

取組による成果・効果

- 電気柵の適切な設置・維持管理を行うことで、被害防止効果を確認。また、電気柵設置箇所に防草シートを設置することにより、畦畔管理労力を省力化
- 現在、電気柵の保守や環境整備に積極的に取り組み、農業被害を軽減
- 当集落で得られた成果は、村内の他集落における集落ぐるみの対策の実施につながっているほか、村で進めている電気柵の導入促進に大きく寄与